

小田原市文化振興審議会 第4回会議概要

1 日 時 令和3年8月6日(金) 15:30~17:00

2 場 所 小田原市役所 7階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

杉本委員、吉田委員、大石委員、関口委員、木村委員、萩原委員、外郎委員、池田委員、浅井委員

(2) 行政

鈴木文化部長、尾沢文化部副部長、諏訪部文化政策課長、黄金井文化政策係長、穂坂主査、原主事

4 傍聴者 0人

5 会議の概要

(1) 議題 (1) 文化によるまちづくり条例の基本計画(案)について

A 委員

基本目標2の成果指標の中に、「市民ホールでの子ども対象の事業の回数」とあるが、子ども対象というのは、何歳で区切っているのか。

文化政策課長

ホールの自主事業として子ども対象の事業を行っているが、今回の成果指標について、何歳から何歳までとは明確に区切っていない。

A 委員

もし地域で暮らしている小学生以下の方を対象としているならば、中・高生も対象として、彼らの居場所として活性化できるような市民ホールであつたらいいと思っている。

B 委員

個人的な考えでは、市民ホール事業対象の子どもとは、高校生までを想定している。市では10月に7校の中学生が合唱で舞台に立つ。高校生は、吹奏楽や合唱、演劇で会館を使用し舞台に立つ。その人数は多く、大切な経験になると考えている。こういったものも含めて、子どもの事業という捉え方をしている。

文化政策課長

子ども対象と言うと、わかりにくい部分もあるので、明確にお示しできるような形で整えたいと思う。

C委員

青少年という言葉を入れればいいのかもわからない。「子どもや青少年を対象」など。

D委員

この数値目標は、現実的な数字なのか。それとも現状の数値に対し、高めの目標値設定となっているのか。また、3年後、目標値に届かなかった時は、計画の見直しなどを含めて、アクションを取ろうとしているのか。

文化政策課長

市の総合計画から用いているものも多い。R2の数値を参考に、R6の目標値を出しているため、それほど高い目標値ではないと考えている。ただ、普通にやっていたら達成できるというものでもない。達成できなかった場合は、なぜ達成できなかったのかが評価の対象になる。計画は基本方針を定めるものだが、評価によっては施策などを見直す必要があると思っている。

C委員

この目標値を設定した理由として、現在の数値に何をどのくらいプラスして目標値を設定したという説明があればと思うのだが、目標値はどのように考えて設定したのか。

文化政策課長

市民ホールはこれから開館なので、その目標値は市民会館の利用回数などから鑑みて作成している。また、市民ホールのHPアクセス数は、現状と比べるのは難しいので、市の他の施設、石垣山一夜城などのアクセス数にプラスする形で、目標値を設定するなどしている。

E委員

目標値や成果指標を出すのは大変苦労すると思う。総合計画から用いたとのことだが、目標値をもう少し見直してもいいかと思うものがいくつかあった。R6ということは3年後。コロナの影響はなくなったという前提で考えた時に、天守閣の入場者数58万人と記載されているが、これは2019年の入込数をそのまま用いているのではないかと思う。観光戦略ビジョンでは、スタートの入込観光客数が400万人、毎年伸びていって最終的には1千万人を目指そうとって作成したが、その数字から考えると、R6が58万人とは思えなかった。文化活動と天守閣の入場客数がそのままリンクするとは思わないが、この目標値のままです。

いいのか疑問である。一人当たりの観光消費額も、おそらく観光戦略ビジョンから出している数字だと思うが、いつの時点でこの3,832円を設定したか、R6の指標規準に対してのものであればいいのだが、過去の年次を使っているのかもしれない。目標や指数は、ある程度高めに設定しないと、努力が進まない。10年後どうするかまで求めるつもりはないが、R6という中間地点の数値をもう一度精査してもいいのかと思った。

またこの基本計画により、直接数値がリンクできるものは市民ホールに関係した数値。一方で、天守閣の入場者数や観光消費額などは、ストレートにはリンクしない。計画では観光などとも連携するよう言っているので、こういった成果指標があっているが、基本的な基本目標と、観光や教育、福祉などと連動しながら共同で達成する目標は、分けてメリハリをつけてもいいのではないか。R6で評価しづらいのではないかかと考える。

基本目標1~4と成果指標が上手くリンクできているのかは確認した方がいい。

文化政策課長

観光の関係の指標については、総合計画の行政案から用いているので、経済部とも相談したい。成果指標の中には、確かに天守閣の入場者数など直接文化とリンクしない部分もあるが、文化の振興だけでなく、まちづくりという事で観光や福祉などに絡む、連携しているという事を表すために載せさせていただいた。市民ホールは何とか達成できるようにと思っている。また数値ではなく、文化的なまちと思う市民の割合を成果指標に含むなど、全体的に文化のまちづくりを進めていくにあたって、周知等、事業含めて取り組んでいけたらと考えている。

F委員

基本目標3の成果指標に、市民学校修了生の担い手実践活動人数がある。基本目標3は「輪を広げる・つなげる」なので、小田原の市民学校での取組の中から担い手が出てくるという事が、基本目標につながってくるのだと思っている。この、実践活動人数という捉え方のイメージは、どういったものか。

文化政策課長

市民学校には、文化だけでなくいろいろな分野がある。例えば、市民学校で後継問題のある民俗芸能・栢山田植歌を紹介した際に、若い人が活動に入ってくれたという事があった。具体的に活動に参加していただくというイメージをしている。

F委員

以前、市は担い手事業で、中間支援の人材育成というものに数年かけて力を入れて取り組んだことがあったと思う。地域の文化力を高めるという専門課程もあるため、そういった後継のイメージがあるのかと思って質問した。

E 委員

基本目標 4 の成果指標と目標値は、こういった評価になるのか。目標値が 3 割というのは低いとも思ったりする。7 ページには、「各地域での文化活動への取り組み実施と取り組み継続のための体制確立」などがあるので、そういったものを目標指数として出した方が、評価しやすいのではないか。市民が知っているかというのは、聞いた人によって変わってきてしまう。計画は実効性があるかどうか。周知という言葉で表現されているならこの指標でいいと思うが、「機会を作る」や「取組実施」、「関係人口の増加につなげる」などであれば、そのための指標を作っていかなければ、評価の際に迷う。各施策に対して成果指標がリンクしていること、それと目標値がある程度高めの設定であればと思っている。

G 委員

基本目標について検証するために、この成果指標が必要だということ、R6 の目標値は、この根拠・取組により設定されるという、具体的なものがあれば、この目標値が意味あるものになると思う。この目標値がいいのか、現時点では判断しかねるので、その点を説明いただければ。

基本目標と成果指標の関連性と、目標値が適切であるという根拠をお示しいただきたい。

文化政策課長

数値で示すことが難しい中でも、なんとか数値で示せるものをお出しした。例えば「文化財公開等事業の来訪者数」は R2 が 5,500 人/年。周知を行って来訪者を増やすなど、具体的な施策はいろいろあると思うが、R6 の目標値は 6,200 人/年。このようにそれぞれの成果指標について、R2 の現状に対して施策を打って目標値を設定している。お示しの仕方を工夫して、R2 と R6 の数値をお示しした方がわかりやすいのだろうか。

G 委員

R6 まで 3 年間あるので、R2 に対して何%増えるとこの数値になるという事が示された方がわかりやすいと思う。計画を作れば増えるというわけではないので、具体的にこの施策・働きかけがあって、何%増を目標にして働きかけをこれから考えていくなど、目標値に行くプロセスで行われる、企画や計画が見えると、イメージも湧くし、中間点での見直しもできる。区切って緻密にできたら。

E 委員

計画とは現時点ではただの紙切れで、これに魂を入れるためには、具体的なアウトプットを考えないといけない。ただ、高い目標を考えても予算がないと何もできない、というのが現在の行政の予算措置。R2 はコロナの関係で少ない数字であるので、正常状態のときの数字に対して R6 の目標を立て、その目標に向かって取り組むべきだと考える。具体的な施策

を実施し、高い目標を達成するためには資金が必要である。達成できない時のことも考え、目標を立てて評価できるようにしている。数値だけ低く抑えると、予算が付かずやりたいことができなくなってしまう。目標設定を高くし、正常状態であったR1（2019年）比5%もしくは10%上げるよう、目標値を設定してもいいのでは。手控え資料で、R1（2019年）の数字、対比表みたいなものをいただければ。

文化政策課長

今回、目標値のみをお示しし、その根拠をお示ししなかったもので、数値が適切かどうか委員の皆さんが判断できない。お示しの仕方は工夫する。予算の話があったが、この計画は基本方針や基本計画を示すものなので、具体的に何をやるかまではお示しできない。ただ、書いておくことによって、やりたいことができるという事もあるので、計画で書かせていただく。

H委員

目標を立てるのであれば、R6だけでなく、R2からの変遷があってこの人数と示されればわかる。入るところは根拠のある数字を入れてもらいたい。

文化政策課長

根拠がないというわけではないが、R6の目標値を設定しているのは、総合計画の目標年度がR6で設定されているため、それに合わせて記載しているもの。書き方として、R2～R6年度という書き方をした方がわかりやすいかと思う。

C委員

この計画期間は10年。本来は、10年後の目標値があって、その途中のR6が設定されているべきだと思うが、最終目標値とその根拠が示されていない。通常、数値で表す定量的目標と、目指すべき状態などを文字や言葉で表す定性的目標、二つで目標を立てる方法もある。文化のまちづくりは5段階評価する方法もある。計画には各施策にタイトルがついており、施策ごとにどのようなになったらいいかという指標を作るべきだと思う。すべてに評価基準を作った方が、評価の時に分かりやすくなる。それぞれの施策に対して、評価指標を作って、定量的なものや定性的なものやダブルで評価したほうがいい。私は5段階で評価してもよいと思う。

数値目標で文化のまちづくりは評価しにくいので、そこを工夫した方が、事業を推進する上では努力目標を立てやすくなる。委員会の中で議論して評価した方がよいと思う。

文化政策課長

数字だけは評価できず、内容によって、やったことによって評価をするという事が必要だ

と思っている。今回の審議会は計画を作るという事になっているが、今後は評価という話も出てくるので、この計画にどう記載するかは別として、評価の仕方については、また相談をさせていただければと思う。5段階評価や新しい事業を行ったという事も評価に加えたいと思う。

C委員

SDGsについても、登録者数というよりは、新しいことに取り組んだ活動の内容、内容が進化している等の評価をした方がよいと思う。定性的な評価ができないと、文化のまちづくりには合わない評価になってしまうのではないか。そこを工夫して、もう一度委員に配っていただくという事をお願いしたい。10年後の目標についても、その方向性を文章等で示したほうがいい。

F委員

市民感覚でみると、この成果指標の一つ一つは、これまで市が広報等で力を入れてきたことが並んでいるのかなと思う。数や方法はこれからまた整理する必要があると思うが、市民からすると、成果指標の項目についてはわかりやすいと思った。実際実現するため、目標値を高めていくためには、ここに出ていない付随するものの充実がかなりなされなければ数字に反映してこないだろうというものもある。数字の設定や評価方法というものを、私たちにわかりやすくしてもらえれば。

(2) 議題(2) 基本計画の名称について

C委員

事務局から、「文化によるまちづくり基本計画」という提案が出ているが、いかがか。

F委員

いいと思う。自治体によっては、芸術という言葉を加えているところもある。文化にまとめた理由を教えてください。

文化政策課長

基本的には「文化によるまちづくり条例に基づく」ということで、この案を提案させていただいた。「文化芸術」や「文化振興」と言ってしまうと、文化だけになってしまうという印象がある。文化によるまちづくり条例は、文化振興のみならず観光や産業、福祉、教育、国際交流等様々な分野と連携しているという事を表しているのです。そういう意味でこの名称を提案をさせていただいた。

C委員

これは、「小田原」という言葉が最初に付くということでいいのか。「小田原ならではの」というように、小田原という言葉・名前をつける方法もあると思うが、どうか。付かないとこの基本計画かわからない。他の自治体でもできてしまう名称となるので、特定した方がいいと思うのだが。

文化政策課長

基本的には「小田原市」を付けると考えてご提案をさせていただいた。他にご意見があれば伺いたい。

C委員

小田原と認識されるタイトルのほうがいいのかと思う。

G委員

小田原という言葉がどこかに入った方がよい。外から見た場合に個性がある名前の方がよいように思う。

A委員

「文化による小田原条例」はどうか。

F委員

条例はすでにある。それを具体化する基本計画だと思うので、「文化によるまちづくり」の前や後ろに何かつけるという事はあると思うが、基本計画でいいのではないか。

H委員

小田原市は、いろいろな所で「まちづくり」という言葉を使っている。地域住民の代表として、まちづくりを先に作ったつもりだったが、市もたくさん作った。一番わかりやすいフレーズだが、少し多すぎないかと思っている。

文化政策課長

条例で「文化によるまちづくり」と定めさせているので、ここでも事務局としてはまちづくりを使わせていただきたいと考えている。

C委員

計画の基本目標 1 で、小田原ならではのと言っているのですが、それを受けた方がいいのではないか。齟齬がないしわかりやすい。

E 委員

文化振興基本計画ではどうか。条例という言葉は入れなくてはならないのか。

文化政策課長

条例という言葉は入れなくてよい。

E 委員

文化という言葉は外せないが、条例は外していい。小田原と文化と基本計画を残し、言葉を繋げればいいのではないか。委員長提案を再度教えて欲しい。

C 委員

「小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画」。他に「小田原市の多様な文化によるまちづくり基本計画」というのもあると思うが少し抽象的か。これから10年掲げていく言葉になると思うので、少し独自性を出した方がいいかと思う。今回、計画の第1章で小田原市の多彩な文化で、9つにカテゴライズして示して説明しているところが、評価できる点だと思っている。市民の人達に認識して欲しい。9つで指標にしたらどうかとも提案したが、どう決めるかが難しい。

I 委員

文化活動をずっと実践してきたが、文化芸術活動を通じて、小田原が非常ににぎやかになり、豊かになる。それぞれの人間が一つの良識を持った中で小田原人として立派に成長していくと考えている。

C 委員

決定できないので、事務局で引き取っていただき、案を作って再度委員に図るという事をお願いしたい。

(3) 議題 (3) 今後のスケジュールと答申について

事務局より説明